

## ママも子どもも孤立させない街づくり

## 滋賀県草津市 認定NPO法人くさつ未来プロジェクト



「母子分離育児サークルキラキラキッズ」ママは自分の時間を。スタッフはすべて地域のママ、過去の参加者。助けてもらったから今度は自分が助ける側に

### 手探りで未就園児親子の居場所づくり期 (2007年～2010年)

代表堀江は2003年結婚を機に草津市に移住。周囲に全くつながりのない中、2004年、2005年に長男、次男が生まれ、子育ての方法がわからず孤立し途方に暮れた。南草津の駅前マンションには同じ悩みを抱えたママがたくさんいて、行政のサポートもまだ追いついていなかったため、自分たちの居場所を作ろうと、同じマンションのママ友、西川伸子と2007年英語育児サークルを立ち上げた。週1回の活動が週6回へ、活動場所も市内各地の市民センターへ。参加者のニーズに応じてどんどん増えた。同時期母子分離育児サークルも立ち上げる。ワンオ

ペで24時間神経を張り詰めて育児しているママに1週間に3時間だけでも子どもから離れてリフレッシュしてほしい、という自分の経験から必要と感じた活動だった。保育士の資格をもっているママに声をかけて、ちょっとしんどい時に実家に預ける感覚でお互い子どもを預かりあえたら、という想いから始まったこの活動は15年間ずっと需要があり、虐待を未然に防ぐ活動として非常に大切なものになっている。

### 行政と連携スタート

(2010年～2015年)

活動の転機は、2010年活動拠点にしていた玉川まちづくりセンターに市役所から女



性所長が就任したこと。「子育て中の母親の居場所がない」というのは草津全体の社会課題であり、行政も力を合わせて解決すべきである」として活動の協力を申し出てくれた。

行政と協同で「玉川学区子育て応援団ネットワーク玉っこひろば」を立ち上げ、地域とのつながり強化や助成金を申請して、より広域的な事業を行うなど、それまで素人のみで漠然とサークル運営を行ってきた状況が、整然とした運営を行えるようになった。

母親たちの生の声から、3歳からの性々生命々教育や子育て支援の講演会を開催したり、市の男女共同参画事業に協力など、「現場の声を拾って届けるべきところに届ける」という役割を果たせるようになる。2015年に開催した子育て支援イベント、ドキュメンタリー映画「生まれる」の上映会。地域の母親たちが協力して地域企業をまわり、資金を集め、1200人の上映会を成功させた。

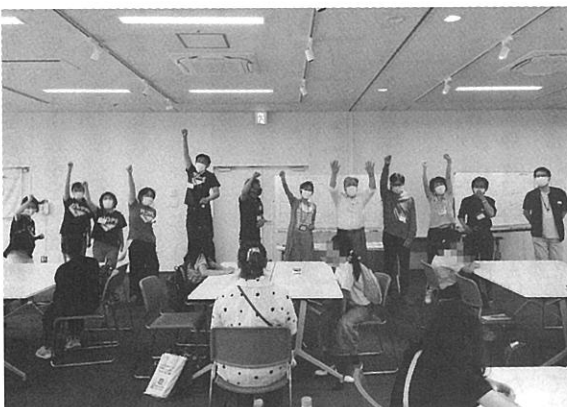
あれがない、してもらえない、と地域や行政に助けをもらう側ではないのではなく、自分たちができることは何だろうか？と動き、協力を仰ぎ一緒に活動していくことが主体的なまちづくりにつながるのだと学んだ。今後安定的、継続的に運営を行うためにNPO法人にすることを決める。

## NPO法人立ち上げから、認定NPOへ (2016年〜2019年)

委託事業や収益事業をメインに行うNPOではなく、寄付という手段で地域の皆さんを子育てに巻き込んでいきたい、という想いから認定NPOを目指し、2018年認定格を取得。ファンドレイジングはフレンドレイジング。人と人がつながれば全ての社会課題は解決する。人と人とのつながりが最大の防災協定だとして、つながる仕掛けをNPOの活動に組み込んでいる。関わったママたちが幼稚園の役員や、PTA、地域の役員など地域活動に積極的に参画しているのも特徴。

●育児サークル6種(母子分離サークルキラキラキッズ、玉っこひろば、虹っこひろば、英語育児サークルダブルレインボー、ママのためのバランスボール、幸せキッチン)それぞれ自分の得意なことで社会貢献したいというママによる運営。ママだけでなくサークルを卒業していった小中学生子どもスタッフとして運営に関わるのも特徴。お散歩ボランティアや食材の寄付など積極的に地域の方とのつながりができるようにしている。関わってきた子どもたちの成長に伴い活動の幅を広げ、次の二つの事業を開始。

●夢！自分！発見プログラム…2017年より認定NPO法人キーパーソン21と法人



「夢！自分！発見プログラム」



「ママとキッズのコーラス隊 COLORS」



「KMP お弁当の日&自炊塾」  
お魚屋さんで自分の好きな魚を買い、魚料理が得意な地域のパパから魚のさばき方を習って調理



「子どもロケット体験教室」

パートナー契約を結び小中学校へのキャリア教育プログラムの実施を目指す。子どもの周り360度に様々な価値観（大人）を。親、教師、塾の先生以外の様々な大人たちと関わることによって、自分を知り、社会を知り、自立する力をつけられるように。自力でプログラムを行えるようナビゲーター養成講座を行い、地域の大人たちが学校に入る環境を整えた。

養護施設の子どもたちへのプログラム実施は4年目となり、継続することで子どもたちが心を開いてくれるようになった。1年目は一言も発しなかった子が3年目で好きなことを教えてくれるようになり、夢も教えてくれた。4年目の今年は、部活で欠席するからと、わざわざお手紙をくれた。地道な活動でしか社会は変えられない。

●子どもロケット体験教室・植松努さん講話「思うは招く」との出会いから、「どうせ無理」という言葉の虐待を日本からなくそう！という想いに賛同。2018年子どもロケット体験教室をスタート。できなかったことができるようになることで小さな自信が生まれる。自分なんて…と自信のない子どもたちへこのプログラムを届けたいと、赤い羽根使いみちを選ぶ募金活動にもエントリーし、2018〜2021年に2000人の子どもたちへロケット教室を届けた。「自

分たちも植松さんの講演会を開催したい、ロケット教室を開催したい」と全国から問い合わせ、視察があり、ロケット教室は東京、広島、福岡、徳島、京都、三重、愛知、横浜と広がり、2022年6月「UE（植松電機）パートナーズ」が発足。日本全国にロケット教室を届ける体制が整った。

### コロナ禍の地域課題の解決へ (2020年)

子育て中の母子の地域からの孤立を社会課題として平常時、活動を行ってきた。人との接触が制限されるコロナ禍においてはいつも以上に活動を行う必要がある。人を怖がらせることは簡単だけれど勇気と前向きに暮らすよう励ますことは本当に難しい。15年間活動してきて今が最も自分たちの存在意義を感じている。できない理由を探さずに、どうしたらできるかだけを考えて活動を行い、活動場所の閉鎖、活動の停止にもかかわらず例年以上の事業を実施できている。

新事業「お弁当の日&自炊塾」は子どもの体験活動が制限され調理実習もできない今だからこそ、家族の大切さ、健康の大切さ、そして自分の力を体感できる活動である。

(認定NPO法人くさつ未来プロジェクト

代表理事 堀江尚子)